



令和8年1月8日
台東区立金竜小学校
校長 伊東 悅夫
栄養士 小林 久美子

あけましておめでとうございます。冬休み中は、日本の伝統文化に触れる機会も多かったのではないでしょうか。1月には全国学校給食週間もあります。学校給食の歴史を振り返り、意義や役割を考えるきっかけにしてほしいと思います。

3学期も給食時間を気持ちよく過ごせるように、食事のマナーやルールについて考えてみましょう。

1月の給食目標



正しい箸づかいをしましょう

正しい持ち方・使い方

① 1本を、えんぴつのように親指、人差し指、中指で持つ。



② もう1本を、親指の付け根と薬指の先で支える。



上のはしを動かして、はし先を開いたり閉じたりして使う。
下のはしは動かさない。



こんな使い方はマナー違反です！



まよいばし
どれを食べるか迷ってはしを動かす。



なみだばし
料理の汁をたらしながら、はしを動かす。



さしばし
食べ物を刺して食べる。／はしで人や物を指す。



もちばし
はしを持った同じ手で、食器を持つ。



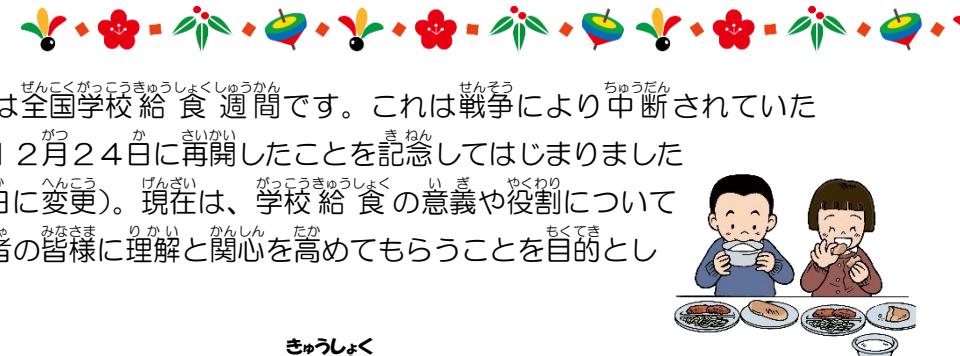
よせばし
つかしょきはしを使って食器をよせる。



ひろいばし・はしわたし
はしとはしを合わせて料理をわたす。

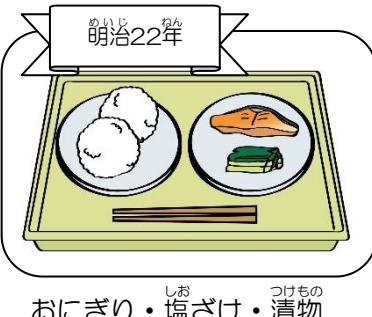
全国学校給食週間

毎年1月24日～30日は全国学校給食週間です。これは戦争により中断されていた学校給食が、昭和21年1月24日に再開したことを記念してはじめました（冬休みの関係で1月24日に変更）。現在は、学校給食の意義や役割について児童・生徒や教職員、保護者の皆様に理解と関心を高めてもらうことを目的としています。



昔はどんな給食だった？タイムスリップ給食！

全国学校給食週間に合わせて、1月26日～28日は、昔の給食を再現したタイムスリップ給食を提供します。今では貴重なクジラ肉や、ソフト麺を使用する予定です。



明治22年



昭和27年



昭和40年

学校給食のはじまり

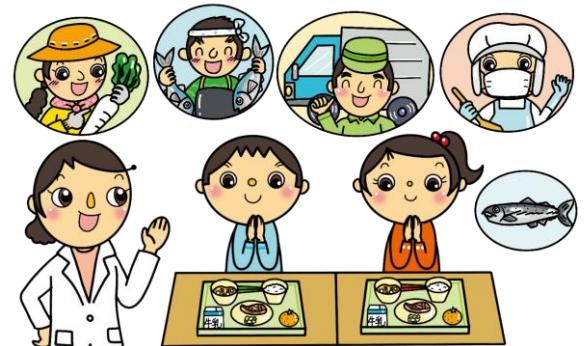
写真:新潟県栄養教諭 佐藤美香先生



小学校があったお寺の境内には、今は記念碑が建てられています。(山形県鶴岡市の大誓寺)

明治22(1889)年、山形県鶴岡町(現・鶴岡市)の小学校で、家が貧しくてお弁当を持ってこられない子どもたちのために食事を出しましたが、日本での学校給食のはじまりです。その後、戦争による食料不足で一時中断されてしまったものの、戦後、外国からの援助物資で再開することができました。

学校給食の役割



給食が始まった当初は、子どもたちへの栄養補給が主な目的でした。しかし現在は、栄養バランスのとれた食事で子どもたちの心身の発達や健康の増進を目指すことはもちろんですが、社会性や協同の精神、自然環境の尊重、勤労を重んずる態度、食文化や社会のしくみについて学ぶ、教育活動の一環として行われています。